豊明希望チャペル礼拝

2026/10/25

「愛は律法の要求を満たす」

ローマ人への手紙 13：8～10

短い箇所ですので、今日は、一つ一つの言葉を追って、節ごとに見ていきましょう。

ただ、その前に、今日の箇所をまとめると、今日の箇所は、「**期待されるクリスチャン像**」とでもまとめることが出来るかも知れません。ちなみに、「期待されるクリスチャン」を、今どきの AI に聞いて見ましょうか・・・こう出てきます。

「期待されるクリスチャンとは、イエス・キリストに倣い、神と人を愛して生きる人です。聖書の教えを土台に、信仰・愛・聖さを日常生活で具体的に表すことが求められます。」

正解！ですね。この後半、「**聖書の教えを土台に、信仰・愛・聖さを日常生活で具体的に表すことが求められます。**」その内容を今日、見ていきます。

短い箇所ですので、今一度、今日の箇所を読みます。

「13:8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。13:9 「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。13:10 愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。」

愛のことがテーマだなと言うことはわかります。

もう少し、私なりに今日の箇所をまとめると、「愛する」というクリスチャンの使命が果たされている限り、律法の要求を満たしている、あなたが、律法を守れていると言うことだとパウロは言います。今日の箇所で、そういう意味での、パウロの言うクリスチャン像は、「互いを**愛する**」人だと結論づけられるかと思います。

＜8 節＞

最初の、**8 節**では、クリスチャンには貸し借りがあってはならないと言います。借りたら必ず返すということです。しかし、もっと注目すべきは、「**愛する**」という使命が果たされていれば、クリスチャンの交わりにおいては、貸し借りにおいては、あまりこだわり過ぎるのは無意味だと言っています。

ここで、一つ注目しておきたいのは、パウロの「ただし」という言い方です。

「ただし」の意味を調べると、こう出てきます。「**「ただし」**

は、前に述べた内容に条件や例外を付け足すときに使う接続詞です。日常会話よりも、文章・説明・契約書などでよく使われます。」

たとえば・・前回もローマ人への手紙から教えられる中で開いた箇所ですが。この二つは、矛盾する言い方です。

「12:2 この世と調子を合わせてはいけません・・・」
「12:18・・・できる限り、すべての人と平和を保ちなさい。」

この世と調子を合わせるなといいながら、できるだけすべての人と平和を保ちなさいと言われたら、それは、調子を合わせろという意味になりますよねということになります。しかし、ここで、「**できる限り**」あるいは、「**ただし**」ということで、例外も多少あることを認めています。すなわち、正論を先に述べて、例外や、のりしろ？というのですか、柔軟な解釈がありうることを言うのが、「ただし」ですね。

前回のところで、これは、パウロが、ローマに生きるクリスチャンの現状を良く見ているから、杓子定規な教えではなく、実践的に、実行できる教えを強調している、あるいは、パウロは、彼らの、この世を生きる戦いや、苦悩に寄り添っている、ちょうど、イエス様が私達にして下さっているようにということをお伝えしました。そういう言い方が、この 8 節にあると言うことです。

＜9 節＞

次に、**9 節**では、クリスチャンも律法を守ることが必要だが、「愛する」というクリスチャンの使命が果たされている限り、先に言いましたように、律法の要求は満たしているから、律法を守ることにあまりに、神経質にこだわる必要はないということです。

注意点は、マタイの福音書 22:37 以下で、イエス様もおっしゃられたように、自分を愛するように人を愛すると言うことです。

しかし、この言葉には注意が必要だと思っています。それは、私たちは、果たして、自分を正しく愛しているかという問題があるからです。そもそも、自分を愛する事が出来ないと思っている人も多いのです。

しかし、問題は、だから、自分を愛する事が出来るようになれば、人を愛せるかという問題です。世の中にはこんな本(「自分を愛そう」)が一杯あります。

カトリックの洗礼の学びのテキストを見せていただいた事があります。ビックリしたのは、その半分が、いかにしたら自分を愛せるか、自分を受け入れられるかという、心理学的なアプローチでした。神さまが私を、あるがままに愛していて下さっている、だから、私の罪を担

って十字架についてくださり、私の罪を赦して下さった事を知るための学びだと感じました。しかし、注意しなくてはいけないのは、「**自分自身のように愛しなさい**」と言っているのだから、まずは、自分を愛することが出来るようにしようという順番、あるいは、動機です。それは、心理学的なアプローチです。順番を逆にしてはなりません。私が自分を愛するのではなく、徹底的に、私を愛しておられるのは、イエス様だけ、神さまだけだという前提です。むしろ、極端な言い回しで言えば、私は、自分を愛していませんとうのが正しいです。だからこそ、悔い改めて神を信じ、その赦しを受け入れたのです。ですから、ここを誤解のないように言い換えておくとすれば、「神が私を愛して下さったように、隣人を愛しなさい。」という言い方です。

Ⅰヨハネの手紙 4:19 にこうある通りです。

「**4:19 私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。**」あるいは、「**4:19 私たちが愛し合うのは、神がまず私たちを、愛して下さったからである。**」

次に、最後の 10 節です。

＜10 節＞

10 節では、その 8 節 9 節の内容の繰り返しのような言い方をしています。特に 9 節の、「**13:9 「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。**」と、律法の本質は、「罪を犯さない」という事で、そもそも律法は、基本的に、〇〇してはならない、〇〇してはならないという否定形で語られます。しかし、パウロの言う、愛すると言うことは、命令形、否定より肯定、ネガティブよりポジティブな表現で語られるべき内容です、教えです。

この言わば、前向きに愛することを行って生きている人は、自然に律法のネガティブな要求は満たされているし、また、8 節に戻れば、隣人を愛しているなら、「**他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。**」とあるように、隣人への借り、あるいは、義理は果たせているので、義理が果たせていないと、あまりこだわらなくても、大胆に言えば、すなわち律法は気にしなくていいと言う事になります。

当然、10 節にあるように、愛するということを誠実に行っていればということが前提になりますが、そうであれば、律法を守るということに執着し、心をわずらわせるような事はいらないということになるわけです。しかし、私たちは、ここまで、今日の箇所の、パウロが言っていることを理解するほどに、「神が私を愛して下さっている愛で、人を赦し、愛しているのか？」実際に、行えているのかということに、いっそう不安になると言うことがあるだろうと思います。

そのへんは、パウロも十分わかっているだろうと思います。ローマのクリスチャンの現実に、彼も向き合って、彼らが向き合っているもの、困難や課題を、想像して、そこに寄り添って、書いている、それは、この書の前回のところでも言ったとおりで、

最初に言ったように、だからこそ、ある意味で、「ただし」であったり、「できうる限り」という表現になるのだろうとも思います。それではということであります。私たちはということであります。

「今」の、たとえば、この 2026 年の世界、愛知県のこの地にどう向き合い、どうこの課題、特に今日の場合は、「(隣人を)愛する」を実行していくのかということです。

毎月、JECA 中部の牧師会があります。私が恵みだと思うのは、毎回、となりの、M 先生を車にお乗せして、時に 30 分、時に 1 時間以上、行きも帰りも、色々と、教会、牧会について、聖書について、ジックリと話しながら行くことが出来るとことです。

私と、先生は、私が神学生で、神学校は違いましたが、先生も神学生で、一緒に、一つの教会に仕えたこと以来のお付き合いです。軽く 40 年以上の付き合いです(家内よりも長い・・)。その教会は、今、グレース宣教会という、元は、八尾自由教会から始まって、近くでは三重県に 2 つ、東京にもチャペルがあり、20 の教会をもつ群です。その元主任牧師の亡き掘内先生が、私に言われたことがあります。「林君、聖書を読みなさいよ。」でした。

神学校で学んでいると、聖書よりも神学書を読むことが忙しくなるからこそ、あえて言われていたことを、当時も今も肝に銘じています。そんな先生の言葉でもう一つ忘れることが出来ない言葉があります。それは、クリスチャンの伝記をたくさん読みなさいと言う事でした。今から思うのは、聖書を読むと同時に、その聖書の教えをいかに生きたかということは、たくさんの事例に出会うこと、出会えないなら、文章で読むこと、理屈よりも、どう生きたか、御言葉によって、個々の課題にどう向き合って、どう解決していったかを、牧師はより具体的に、多様な例を知っておけと言うことだったように思います。

前回、このことを話す中で、日本基督教団の引退された牧師 S 先生と、時々、私の説教を読んでいただいたり、先生の説教を読ませていただいたりしているのです

が、先日は、「林先生。説教では、新しい方々にも何とかアッピールをと願っていますが‥。先生の求道者向けの説教も送ってください。よろしくお願いいたします。S」と。

聖書の言葉が、あの人に、あるいはあの求道者に届くにはどうしたらいいだろう、80 歳を迎えて、すでに担当牧師は引退して、一信徒となった今も、御言葉を、どう伝えたらいいか、御言葉がその人の実生活になるために、苦闘しておられる姿に、教えられたのです。

M 先生と、車の中で、交わす会話も多くがそういうことだろうと思います。神学生代のある先生の言われた事、その先生は私と M 先生の共通したその時代の奉仕者ですが、彼が、クリスチャンは、ふところが豊かだという顔をしていないといけないと言ったねと言うことが議論となりました。先生の言わせると、彼がそんなことを言うはずがない、もっとも、豊かでなかったからね・・いや、だからこそじゃないですか？聞き違いじゃないか？行った言わなかっただろう・・と、すこしギクシャクしたときとなりました。

先生に言わせると、たぶん、クリスチャンといっても、いつも、ふところが豊かであるという満たされた顔ばかりしていられるかという事だったように思います。それも正しいのです。私たちは、無理して明るく、余裕の顔でふる舞う必要はありません。まあ、結論はいいのです。

私は思うのは、御言葉に生きようとすると、ああでもない、こうでもない、どうしたらいいか、頭を悩ますということです。とりわけ、私たち自身の事はもとより、あの求道者のこと、あの兄弟のこと、あの姉妹のことを思いながら、御言葉に聞き、どう伝えたらいいか、どう励ましたらいいかを考えることは、とてもむつかしいです。

でも、まさに、それが、「愛する」ということではないかという事です。あの人のためを思って悩む、祈る、時に挫折を覚え、失敗をする。こういうつもりで言ったのに、通じなかった、かえって誤解を招いてしまった。そのこと自体が、「愛する」という事だと思うと言うことです。

パウロが、「できる限り」と言い、「ただし」と言いながら、御言葉を彼に実行していただくために必死で祈っている、考えていること、それは愛していることそのものであります。そして、結果はどうあれ、そのようにしている人が、律法の要求を満たしている人だと言う事、そのことを今日、教えられたのだと思います。

今週の歩み。この「愛する」を、課題として、神の愛、キリストの赦しの愛に愛された者として、あの人を、かの人を、愛する事に悩んでいくことを恐れず、取り組みたいと願うのです。